

国宝土偶の「カックウ」



ボクは国宝土偶の「カックウ」。みんなよろしくね。

「カックウ」は北海道でただ一つの、国宝に指定された中空土偶です。発見されたのは現在の函館市南茅部地区(旧南茅部町)で、その「茅(カヤ)」と中空土偶の「空(クウ)」を合わせて「茅空(カックウ)」という愛称で親しまれています。約3,500年前に作られたものとされています。

昭和50年8月24日、小坂アエさんが、畑でイモを掘ろうとしてクワを入れたところ、何かにガツンと当たりました。掘り出してみるとそれは人の形をした焼き物でしたが、家族から「教科書で見た埴輪ではないか」と言われたため、役場の学芸員のところへ持って行き、縄文時代の土偶であることがわかりました。

高さは41.5cm、体が空洞の「中空」土偶では日本一の大きさです。

お墓と見られる細長い穴に埋められており、頭の髪と両腕は、埋められる前に壊れていましたが、それ以外の部分は全てそろっています。

縄文時代の信仰の様子などを明らかにする上で欠かせない資料であり、とても貴重なことから、発見から4年後の昭和54年には重要文化財に、平成19年には国宝に指定されました。

平成20年7月の北海道洞爺湖サミットでは、会場となったホテルに展示され、平成21年9月から11月にはイギリスの大英博物館で展示、それ以前にも4回にわたって海外で展示、縄文文化の土偶の素晴らしさを、海外で大いにアピールしています。

その後は、平成23年10月1日にオープンした「函館市縄文文化交流センター」に展示されており、いつでも見るできるようになりました。

※ 「カックウ」は、男性か、女性か、または「精霊」か、と研究者によって意見が分かれるところですが、この本では親しみやすく、男の子と仮定し、「ボク」という形で表現します。



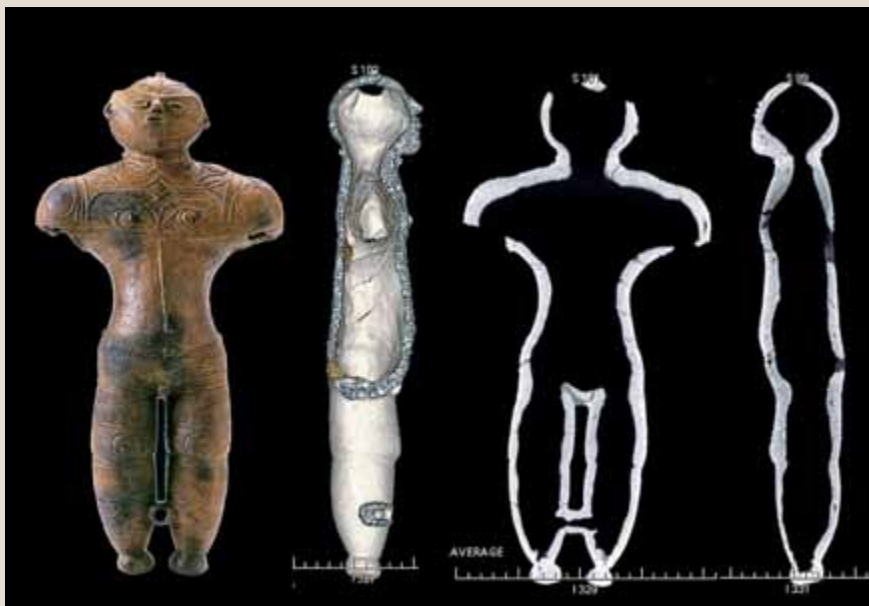
3-1 土偶が入っていたと考えられる土坑墓



3-2 国宝「土偶」正面（函館市著保内野遺跡）



3-3 国宝「土偶」裏面（函館市著保内野遺跡）



3-4 CTスキャン画像

北海道の縄文文化について

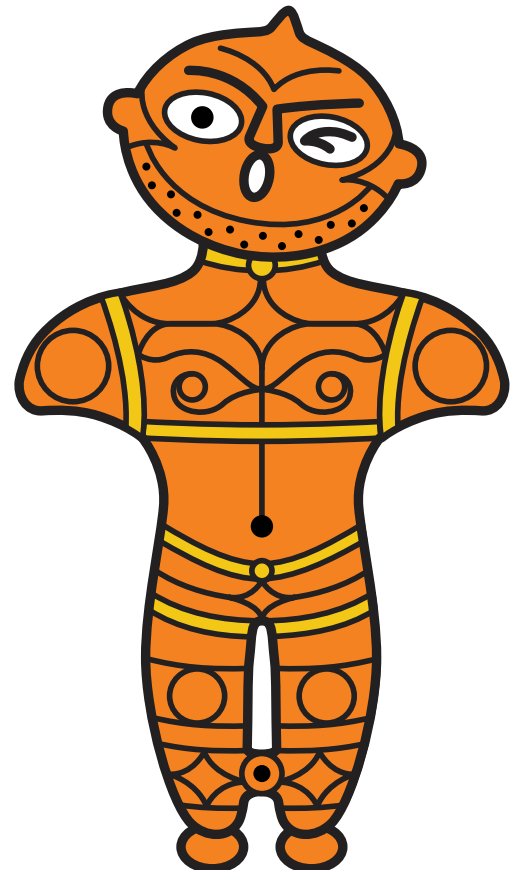


ボクが生まれた時代はどんな時代なのかな？

【年表】

年代	本州の時代区分	北海道の時代区分
13000年前	旧石器	旧石器
12000年前	草創期	縄文 (時代区分は同左)
10000年前	早期	
6000年前	前期	
5000年前	中期	
4000年前	後期	
3000年前	晩期	
2300年前	弥生～古墳 飛鳥～平安 鎌倉～江戸	続縄文 擦文 アイヌ文化

※簡略化して表現しています。





1 年代と地域

北海道の縄文文化は、本州より少し遅れ、今から12,000年前から始まり、2,300年前頃まで約1万年にわたって続きました。作られた土器の特徴などから、草創期、早期、前期、中期、後期、晩期の6つの時期に区分されています。

縄文文化は、択捉島から沖縄までの日本列島全域に及びますが、土器の特徴などにより、いくつかの地域に区分されます。北海道（主に道南から道央）と北東北（青森県、秋田県と岩手県）の縄文文化には共通性があり、津軽海峡を挟んだ交流が数多く行われていたことがわかっています。

2 縄文時代の暮らし

縄文時代は温暖湿潤な恵まれた自然環境のもと、動物や魚を獲ったり、木の实などを採集して生活していました。そして、竪穴住居などを造り、生活する場所を一か所に定め、村を造り、定住生活を始めました。また、土器を発明したことにより、食料の調理や貯蔵が可能となりました。

動物などを獲りすぎないようにしたり、より大きな木の実が取れるように森の手入れをしたりして、自然と上手につきあいながら生活をしていました。

さらに、土器もただ使うための道具としてだけでなく、いろいろな文様を付けるなど芸術性を高め、さらに、縄文人の精神世界を反映した土偶を作り、それを使った儀式を行うなど、心の世界も大切にしていたことが伺えます。

3 世界との比較

世界各地では、農耕や牧畜とともに、定住生活を始めますが、縄文文化は農耕を行わず、狩猟や木の実などの採集を行って定住生活を営んでおり、世界の同時期の文化とは異なった特色があります。